

“V给”文の意味特徴に関する考察

関 光世

(京都産業大学非常勤講師)

現代汉语の“给”字句根据“给”字出现的位置分为三种句式，还有一部分动词不借助“给”字，并直接带两个宾语表示给予。一般认为一个动词能够成的几种句式如“我寄给他一个包裹。”和“我给他寄一个包裹。”表示一个意思。同时认为“我送他一本书。”是“我送给他一本书。”的压缩形式，“给”是任意的。

本文以包含“动词+给”格式的句式为主要对象，采用认知语言学的句式观与同一个动词所构成的其他句式进行比较，试图说明该句式中的“给”具有一定的语义功能，同时说明该句式的整体意义。另外，本文对在给予事物前置的句子中更加要求动词后加“给”的现象，从语法和语用两个方面论证其理由。

0. はじめに
1. 先行研究
2. “给”の意味機能と“V给”文の意味特徴
 - 2.1. 動作・行為の特定化
 - 2.2. [到達]をめぐって
 - 2.3. 「終点」と「目標」
 - 2.4. “V给”文における事態の把握
3. P前置型構文と“V给”
 - 3.1. Pの前置と“给”の付加
 - 3.2. P前置型構文と“V给”
 - 3.3. 情報伝達から見た“V给”
4. まとめ

0. はじめに

よく知られているように、“给”を含む中国語の授与表現にはその出現位置によって3種類の文型が存在し、さらに一部の動詞は“给”なしでも二重目的語を伴って事物の授与を表すことができる。また、ある動詞が構成

可能な文型は一種類とは限らず、どの文型が成立可能であるかは動詞によって異なる。

これまで、ある動詞が構成可能な複数の文型は「同じ意味」を表すとされ¹⁾、その意味の違いや文型の選択に関わる要素について深く論じられることは少なかった。

本論は<動詞+給>の構造を含む文型（以下“V給”文）を取り上げ、同一の動詞で成立可能な他文型との比較をとおして“給”の有無やその出現位置の違いが文全体にもたらす意味の違いを観察し、“V給”文における“給”の意味機能と文全体の意味特徴を明らかにしようとするものである。さらにそれらを踏まえて、“把…”構文や“是…的”構文など「与えられる事物」が動詞に前置された構文では動詞に“給”を付加する傾向が強まる理由について、文法と語用論の両面から説明を試みる。

1. 先行研究

朱德熙 1979によると“V給”文を構成するのは“卖”類、“寄”類及び“写”類など[与える]という意味特徴を備える動詞であり、そのうち本来的に[与える]意味を備える“卖”類動詞と、そうでない“寄”類及び“写”類動詞²⁾は、他文型³⁾の成立という点で異なる振る舞いを見せる。その関係を整理すると下表のようになり、“V給”文を共通項として相補的な関係にあることがわかる。尚、表中のRは事物の受領者(recipient)、Pは与えられる事物(patient)を表す。

文型	A (V+R+P)	B (“V給”文)	C (給+R+V+P)
“卖”類動詞	我卖他一本书。	我卖给他一本书。	_____
“寄”類動詞	_____	我寄给他一个包裹。	我给他寄一个包裹。
“写”類動詞	_____	我写给他一封信。	我给他写一封信。

“給”をめぐる研究において文型Aは[“V給”文の短縮形]⁴⁾(朱 1979、沈 1999)、「動詞が“給”の力を借りずに事物の授与を表す構文」(張 1999)などと位置付けられてきた。また“卖”類動詞が構成する“V給”文の“給”は「あっても無くても良い任意(optional)の要素」⁵⁾であるというのが一般的な認識である。

しかし施美滄 1981 や李臨定 1986 らは、この“給”を任意の要素としながらも、「与える意味を強める」働きや「与える意味と受領者をさらに明確にし、浮き立たせる」働きがあると述べている。これらは彼らがネイティブスピーカーとして“給”に一定の意味機能を認め、その有無によって文全体に意味的な相違が生じると直感することを指摘したものであるが、いずれも十分な論証はなされていない。

さらに以下の実例を参照されたい。

- (1) 杨重过来递给于观一枝烟。《你》 → ? 杨重过来递于观一枝烟。
- (2) 你这手上的戒指，也不是他送给你的么？《雷》
→ ? 你这手上的戒指，也不是他送你的么？
- (3) 马威把一碗凉水递给父亲。《二》 → ? 马威把一碗凉水递父亲。

中川 1973 でも指摘されているように⁶⁾、例 (1) の如く R が固有名詞である場合、“給”を省略すると文の成立は難しくなる。また P が前置された文において“給”を省略すると不自然だと指摘するインフォーマント⁷⁾ もおり、少なくとも上の 3 例において“給”は「あっても無くても良い」とは言えない。

また、“寄”及び“写”類動詞で成立可能な 2 文型の変換にも制限のあることが知られている。

- (4) 我给他写信。 → *我写给他信。
- (5) 我给他写了一封信。 → *我写了给他一封信。

以上は“V 给”文における“给”が一定の意味機能を持ち、またこの文型が他文型とは異なる意味特徴を備えている可能性を強く示唆するものである。

沈家煊 1999 は、文の形式の違いは私たちの事態に対する捉え方即ち事態把握の仕方を反映したものであるという認知言語学的構文観⁸⁾ に立って“给”を含む文型の意味特徴を考察した。

例えば客観的には「一冊の本」(ひとつの小包)が「私」から「彼」に移

動するという全く同一の事態を表す“我卖他一本书。”と“我卖给他一本书。”、“我给他寄一个包裹。”と“我寄给他一个包裹。”における“给”の有無やその出現位置の違いは、同一の事態のうちどこに認知的な際立ちを置くか、といった事態把握における違いを反映していると考えるのである。

沈文は、“V 给”文で“V 给 R”が隣接しているのは、事物の移動と到達がひとつの連続した過程として捉えられているからであり、また“给 R”が動詞の後に位置するのは、R が動作の終点 (destination) であると認識されていることを示していると説明し⁹⁾、その上で“V 给”文の意味特徴を“惠予事物转移并达到某终点, 转移和达到是一个统一的过程”(与えられる事物が移動して終点に到達する、移動と到達がひとつの連続した過程である)と定義づけた。ここではこの説明を支持し、他文型との比較に進みたい。

2. “给”の意味機能と“V 给”文の意味特徴

2.1. 動作・行為の特定化

まず以下の2文型を比較されたい。

文型 A :

- 1 我送他一本书。
- 2 我送他_____。
- 3 我送__一本书。

文型 B :

- 1 我送给他一本书。
- 2 我送给他_____。
- 3* 我送给__一本书。

文型 A と文型 B の構造上の違いは“给”の有無のみである。A では“他”(3 では“一本书”)は動詞“送”と直接に文法関係を結んでその目的語となっているが、B では“给”を介して間接的に目的語となっている。換言すれば“他”は“给”と直接的な文法関係を持っていると言える。このことは、A では“他”と“一本书”のいずれを省略しても文は成立する(2 は多少意味の明確性を欠くが成立は可能)が、B では“一本书”を省略することはできても“他”を省略することはできないことから伺える¹⁰⁾。また B-3 のみが成立しないことは、“给”が強く R を要請する性質を持つことを示している。

さらに以下の実例を参照されたい。

- (6) 你去跟那个老婆子说说, 说好了, 我送给你一袋子白面! 《茶》
 (7) 温都太太…, 赶紧递给马威一碗茶, 跟着说: “茶真香!” 《二》
 (8) “姑娘, 我送您几句话, 不收钱。” 《你》
 (9) 祥子的脸红得像生小孩时送人的鸡蛋。(老舍《骆驼祥子》)

例(6)(7)のような文型BはRに人称代名詞と固有名詞のいずれをも容認するが、文型Aでは固有名詞のRはほとんど見当たらない。一方例(9)のような不特定の“人”をRにして一般化された行為を表す用法は、文型Bには見当たらない。

ここまでの観察をまとめてみる。

R	文型 A	成立可否	文型 B	成立可否
Φ	送 礼物	○	送给 礼物	×
人	送人礼物	○	送给人礼物	×
他	送他一件礼物	○	送给他一件礼物	○
马威	送马威一件礼物	×	送给马威一件礼物	○

文型AはRを省略しても文は成立し、不特定の“人”も受け入れるのに対し、固有名詞に対する許容度は極めて低い¹¹⁾。一方文型BはRを省略すると成立せず、不特定の“人”も受け入れないが、人称代名詞と固有名詞は共に受け入れる。文型BでRが不特定の人物を表す例は未見である。

動詞に“给”が付加されると、事物の受領者は不可欠の要素となるばかりでなく、特定の人物であることを強く要請される。これは“给”に動作・行為を現実特定の相手に対してなされた特定の行為に限定する働きがあるためだと考えることができる。

“V给”文は専ら特定の人物に対する特定の動作・行為を表す文型であると言えるだろう。

2.2. [到達] をめぐって

“我送给他一本书。”で“他”が“送”ではなく“给”と直接的な文法関係を持つならば、両者は意味的にも直接的な関係があると考えられる。

以下の3文についてインフォーマントに聞いたところ、(10)と(11)は成立しないと判断された¹²⁾。

- (10) *我曾经给她一件毛衣, 她不收。
 (11) *我曾经送给她一件毛衣, 她不收。¹³⁾
 (12) 我曾经送她一件毛衣, 她不收。

1で述べた沈文の説明に従えば、例(11)では事物の移動と到達がひとつの連続した過程であるので、セーターはすでに彼女に「到達」していなければならず、「受け取らなかった」という後の節と矛盾するために成立しないと説明できる。“給”の[与える]という原意を考えれば、例(10)が不成立とされたのも同じ理由だと推測できる。すると例(12)は逆に“送”だけではセーターが彼女に到達したかどうかは確定されないため、後の節でそれが不成立であったことを示されても非文にはならないと説明することができる。つまり文型Aでは事物が受領者に到達したか否かについては文法的には中立で、最終的には文脈によって決定されていることになる。

時制に関する情報が無い場合に已然の事態として理解されるか、未然の事態として理解されるか、という点もこの観点を支持する傍証となるだろう¹⁴⁾。

- (13) 因为他不知道校长室送给他怎样的聘约。《围》
 (14) “你和杨金挺熟？”老邱递给我一支烟。《橡》

上の2例は時制に関する情報が無いにも関わらず、動作・行為はすでに実現しており、事物はすでに受領者に到達していると理解されるのが自然である。“給”の付加によって動作・行為がすでに実現したと理解される傾向が強まるのである。一方次の例ではいずれも動作・行為がまさに今実現しようとする状況にあることが読み取れる。

- (15) “那日见了我, 说是我的崇拜者, 硬要我送他一本书”
 (贾平凹《废都》)

(16) “我送你一样东西，我以前答应送你的。”（巴金《家》）

(17) “燕燕，王爷爷上次答应的，送你一支日本圆珠笔，给！”

（湛容《燕燕的作文》）

“给”の有無による以上のような意味の相違から、“V给”文における“给”には事物の受領者への到達を顕在化する働きがあり、“他”が“给”と直接的な文法関係を持つことによって与えられた意味とは即ち事物の受領者への「到達」であると言えるのではないだろうか。

しかし“V给”文が例外なく事物の受領者への「到達」を表すと言い切ることはできず¹⁵⁾、この点についてはなお考察の余地があると考ええる。

2.3. 「終点」と「目標」

まず以下の2文型を比較されたい。

文型B：我寄给他一本书。

文型C：我给他寄一本书。

沈文は、文の成分が排列される順序は現実の世界で事態が生ずる順序を反映するという「時系列の原則」を用いて上の2文型の違いを説明している。それによると、事態が生じた順序は文型Bでは“寄”→“给他（一本书）”、文型Cでは“给他”→“寄一本书”となる。従ってBにおいて“他”は動作・行為が行われた結果到達する終点と認識されているのに対し、Cでは行動を起す前に立てる目標として認識されていると言える¹⁶⁾。事物の授与という行為が目標とするのは事物の到達先である。つまり“给R”を動詞の前に置くという行為は、動作の仕手がこれから起す動作・行為について、その到達先を予め設定することに他ならない。この2文型の違いは動作・行為の終点Rが現実のものとして認識されているのか、仮想のものとして認識されているのかにあると言える。

そのため文型Cは個性や現実性が希薄なPをも受け入れるという特徴がある。

以下の例を参照されたい。

(18) “给艾克打电报。”“上将”满不在乎地说，…。《你》

(19) 我悻悻地给阿眉写信，…。《空》

上の例では“电报”や“信”の現実性や個別性は特に必要とされず、「電報を打つ」「手紙を書く」という一種の行為タイプ¹⁷⁾として用いられ、表現の重点は行為そのものにある。

さらに以下の例を参照されたい。

(20) 早早儿起来，别叫老马跑了！起来用凉水洗洗脸，给楼下老太太写个字条儿，…。《二》

(21) 白太太的丈夫死了，黑太太给她写封安慰的信，好了，忙！

《二》

例(20)の“字条儿”は明日の朝書こうと思っている（まだ書いていない）メモであり、例(21)も現実の手紙のやり取りについて述べているのではなく、習慣的行為を客観的に述べているに過ぎない。

2.4. “V 给”文における事態の把握

これまでの議論をまとめると、“V 给”文における“给”はRを特定の受領者に限定すると同時に動作・行為を特定化し、また事物の受領者への「到達」を顕在化する機能を持つとすることができる。「事態に対する把握の仕方」という観点から見れば、この文型は「動作の仕手から受領者への事物の移動」という事態のうち、事物の受領者に強い関心を寄せていることが伺え、換言すれば“V 给”文は受領者に認知的な際立ちが与えられている文型であるということになる。

3. P前置型構文と“V 给”

“把…”字構文や“是…的”構文を用いて事物Pの授与を表す時、Pは動詞の前に位置する。このような構文（以後P前置型構文）においては、動詞に“给”を付加する傾向が強い¹⁸⁾。この現象はこれまでも指摘されているが、その理由については語用論的な説明にとどまっている¹⁹⁾。

卢涛2000はP前置型構文で動詞の後に“给”が強く要請される理由について、構文の意味特徴と“给”の機能を結びつけて説明している²⁰⁾。

本論では構文論と語用論の両面からこの問題を考えてみたい。

3.1. Pの前置と“给”の付加

下例(22)ではaとbのどちらを選択するかネイティヴスピーカーに聞いても傾向は掴みにくい。しかし(23)では明らかにbを選択する傾向が確認できる。動詞“还”の場合も同様である。

- (22) a. 我送你一盆花儿。 b. 我送给你一盆花儿。
 (23) a. 我把这一盆花儿送你。 b. 我把这一盆花儿送给你。

さらに“递, 交, 卖”などの動詞はP前置型構文ではほぼ全てが“V给”であり、以下の例文から“给”を落とすことはできないと判断された²¹⁾。これらの動詞については“给”は不可欠だということである。

- (24) 马锐把啃了一口的苹果递给父亲, 马林生接过来不分高低地咬吃起来。《我》
 (25) 把铺子的钥匙交给我! 《二》
 (26) 他的铺位听说卖给一个从西贡到香港的中国商人了。《围》

以上から、Pが前置されると動詞の後に“给”を付加する行為に対する要求度が高まることが観察できる。

3.2. P前置型構文と“V给”

下に示すとおり、P前置型構文におけるPは定形式(definite)で、一般的に<数詞+量詞+名詞>の構造を持つ不定形式(indefinite)のPは前置されない²²⁾。前置されたPは既知の或いは確定し得る、特定の事物である。

- (27) 她把书递给你的同时, 还递给你一张小纸条, 让你在上边写上自己的名字。 (王梓夫《蝉蜕》)
 (28) 这扇子就是他送给表姐的。《围》

よく指摘されるように、“把…”字構文は事物を処置し、影響を与えることを表す文であるため、“把…”に続く述語動詞は単独では用いられず、必ず動作・行為がもたらした結果を表す成分が必要である²³⁾。また例(28)のような“是…的”構文では、動作・行為がすでに実現し、「いとこのお姉さん」の「扇子」に対する所有が既成事実であることが構文成立の前提となる。

以上の点と“V給”文における“給”の意味機能及び文型全体の意味特徴とを考えあわせれば、P前置型構文において動詞の後に“給”を付加する傾向が強まる理由について、2通りの説明が可能になる。

第一に、Pが確定し得る特定の事物であるなら、当然それに関わる動作・行為も特定の人物に対してなされる特定の行為であると考えられ、そのために動詞も「特定」の形式をとることが求められ、“給”を付加する傾向が強まる。つまりPが確定し得る事物として前置されると、専ら特定の動作・行為を表す文型であるという“V給”文の意味特徴に合致することから“V給”を選択しやすくなるのである。

第二に、物の授与という行為にとっての結果とは「受領者への到達」に他ならない。従って動作の実現が前提であり、動作の結果や影響について明確に示すことを求められるP前置型構文においては、[到達]の意味を顕在化する働きを備える“給”を付加しようとするのである。

3.3. 情報伝達から見た“V給”

しかし以下の諸例で敢えて“給”を付加しない理由に関しては、上の2説は全く説得力を持たない。

- (29) “听孟老师说，你爱好收集骨董的，倒舍得把这么好的一枚铜镜送我们？”《废》²⁴⁾
- (30) 明天你还是把闹钟还我好吗？（叶蔚林《蓝蓝的木兰溪》）
- (31) 这裙子送你…也就你配穿。（杨遐《徘徊的青春》）

P前置型構文において敢えて“給”を付加しないのは一体どのような事情によるものだろうか。この点について情報の新旧と聞き取り手の関心の推移という情報伝達の観点から観察してみる。

以下の例を参照されたい。

- (32) 那个姑娘正在悄悄打电话，似乎是打给远方亲人的越洋电话。接电话的也许是她妈妈，她正向家人问候节日。她的语调欢快、亲热，还带有几分撒娇。…她叫爸爸接电话，问爸爸为什么不给她写信。《许》
- (33) 不知道谁定下的规矩，哥哥从部队上来信从来都是写给爸爸。嫂子嘛，一律是信尾上附一句“顺祝素霜好”五个字。哥哥是从来不指名给嫂子写信的。大概因为有爸爸在，这样做不合乎什么礼制吧。（郑万隆《嫂子》）

上の2例ではまず動作・行為を提示（点線部）した上で、再度繰り返す形で事物の到達先を示している（実線部）。このような文脈においては、初出時には聞き手の関心は動作そのものにあるが、ひとたび提示されればそれは既知の旧情報となり、関心はさらなる情報即ち電話や手紙の到達先が誰なのか、に移る。上の2例では、選択肢としては“(这个电话)似乎是给远方亲人打的越洋电话”、“(他的信)从来都是给爸爸写的”もあり得るが、いずれも“V给”を選択していることに留意されたい。次の例も同様である。

- (34) 计算日子，再过三日竟是儿子三岁的生日，…直喊了一辆蹬三轮车的夜行人，掏三元钱让拉她去钟楼邮局，给潼关的旧家发了电报，电报是发给儿子的，写了“愿我儿子生日快乐。”
《废》

このような文脈における“V给”の選択は“写信，打电话，发电报”などの“写”類動詞だけでなく、“卖”類動詞にも見られる。

- (35) 我知道你有的是存款，金子，银子，股票，地契。哦，借给我三千块钱，就三千，我作了生意，我一定还你，还给你利息，还给你本，你听见了没有？我要加倍还给你。《北》

例(35)においても初出時には“給”が付加されていない。ここでは「返す」という行為を提示したに過ぎないのである。二度目からは“給”を付加し、最後には「(聞こえてる?) 倍にしてあんたに返すって言うてるんだよ!」という確認の意味が読み取れる。

以上の例で“V給”が選択されたのは、動作・行為がすでに前提となり聞き手の関心が行為そのものから離れてその行為の結果に移行したため、求められている情報を提供するには「結果」即ち[到達]の意味を顕在化する必要が生じたためと言える。

Pの前置と動詞に“給”を付加する行為の間には文法的要素と同時に以上のような語用論的要素も関わっていることが明らかになったが、これを一応の結論として再度P前置型でありながら“V給”を選択しない実例に目をやると、例(29)から(31)は、話者の関心がとくに受領者にあるわけではなく、行為そのものにあることが読み取れる。

4. まとめ

以上“V給”文における“給”の意味機能及び“V給”文の意味特徴について、認知言語学的な構文観を参考に考察した。その結果“V給”文における“給”は動作・行為を特定の受領者に対する特定の行為に限定し、また事物の受領者への「到達」を顕在化するという2つの機能を備えていることが説明された。事態把握の仕方という観点から言えば、“V給”文は事物の授与に関わる「動作の仕手」、「受領者」、「事物」のうち、受領者に強い認知的際立ちが置かれた文型であると言える。

さらに、P前置型構文において動詞に“給”を付加する傾向が強まる理由について、本論では文法及び語用論の両面からのアプローチを提案し、上で明らかになった“給”の意味機能及び“V給”文の意味特徴からこの現象に説明を与え、さらに情報の新旧と聞き手の関心の推移も“給”の付加に関わる要因のひとつであることを指摘した。

<注>

- 1) 呂 1999, p 226、朱 1998, p 170 のいずれにおいても文型による意味の違いには全く触れておらず、その説明から「同じ意味である」という立場であることが伺える。
- 2) 朱文では、「寄」類動詞と「写」類動詞の「与える」意味は“有时出现，有时不出现”（現われる時もあれば、現われない時もある）としている。
- 3) 本論では比較の対象を表中の文型A (“V + R + P”)と文型C (“給 + R + V + P”)に限定する。“我写一封信给他。”のような“V + P + 给 + R”の文型については、“写信”“打电话”など一部の動詞を除いて使用頻度が低く、他の文型とは異なり動詞の意味特徴に関わりなく成立することから、本論では考察の対象から除外する。
- 4) 朱文は“緊縮形式”という表現を用いて次のように述べている。“…就是把不带‘给’的S4看成是带‘给’的S1的緊縮形式。…如果V是‘卖’类动词，‘给’字可出现可不出现 (optional).”
- 5) 注4を参照されたい。
- 6) 中川は、<SVOO>という二重目的語文において、間接目的語に人称代名詞以外のものがくることがなく、“*我给李四一本书。”は全く変であり“我给他一本书。”としなければならないと指摘している。
- 7) インフォーマントは二十代後半から四十代前半までの北方話者6名を含む11名。
- 8) Langacker 1990, P 13-14を参照されたい。
- 9) 沈 1999, p 97-99を参照されたい。
- 10) 陈 1986は“送给小王”は成立しても“*送给一张电影票”は成立しないと述べている。しかしその理由については触れていない。李 1986は“接长不短几的我表哥扔给几个糖三角。”のように受領者を省略することも稀にあるとしている。このような例は筆者が収集した実例にも見られず、極めて稀であると考える。
- 11) この現象が如何なる理由によるものかについては今後の課題としたい。
- 12) 但しこの判断は完全に一致した訳ではない。一部「成立する」と判断した者もいる。ここでは例(12)だけが他の文型とは異なる判断結果を見せた点に注目したい。
- 13) 本例のみ沈 1999, p 99から。他の2例は比較、検討のため作成した。沈文では“我曾经送一件毛衣给她，她不收。”との比較の中で、本例は“一件毛衣”と“她”が隣接していることから、近接性の原則に基づいてこれらが所有関係にあるはずだと考えた。しかし本文中の3例では両者はいずれも隣接しており、この説明は説得力を失う。そのため、唯一の相違点である“给”の有無から説明を試みた。
- 14) 時制理解の傾向性及び“给”の付加による動詞の語彙的な意味範囲の変化につ

いては関 2001, p 15-18 で“卖”と“卖给”を例に論述している。

- 15) 関 2001, p 17-18 に例示したとおり、“V 给”文が[到達]を表さない例も見られる。
- 16) 朱 1979 では、“张三给李四寄包裹。”で“寄”は「送り出す」ことだけを意味し、「到達する」意味は“给”が担っているとしているが、施 1981 ほかにも指摘されているように、時系列の原則から考えればこの説には疑問が生じる。
- 17) 行為タイプについては相原 1985 に基づく。
- 18) 関 2001, p 32 において行った初歩的な統計の結果、“V 给”文は他文型と比べても P の前置を受け入れやすいという傾向が見られた。
- 19) 龚 1983 は“V 给”のつくる兼語文を分析する中で P の前置に触れ、その理由として「読みやすくするため」、「表現の必要性」などをあげ、「直接目的語が長すぎるような場合にも誤解をさけるために前置する」とも述べている。これらはどれも語用論的な理由である。しかし前置できる P には制限があり、無条件に前置できるわけではないことなどを考えると語用論的な理由だけで片付けるわけにはいかない。
- 20) 卢文では“送”のように出来事の着点(受け手)を無標に表示する機能をもつ動詞に“给”を付加すると、さらに受け手を「説明する」働きが生じるとしている。そしてその根拠として「把構文」や“是…的”構文など「受け手を説明する」ことが求められる構文では“给”が省略できないことを挙げている。しかし P 前置型でない“V 给”文における“送给”の“给”に受け手を説明する機能を見出すことはできない。また P 前置型構文では確かに“给”に対する要求度は高まるが、省略すると不適格文になると断言するのには無理があるようだ。
- 21) “卖”について“给”を必要とするという判断は“递、交”に比べると若干弱いようである。次の例で“给”を省略できるとしたインフォーマントもいた。“乡下的电视机要卖就卖给他们，可他们给乡下人的钱很少。”《许》
- 22) 中国語において「定」、「不定」という概念は明確に区別できるものではないようだ。“马威把一碗凉水递给父亲。”の“一碗凉水”が不定形式でありながら前置されているのは、それがすでに目の前にあって手に持っている水であり、その意味では確定し得るもので、「定」とみなされているからだと考えられる。ここでは形式にこだわらず、前置された P は既知の確定しうる事物であるとする。
- 23) 吕 1999, p 54-55、朱 1998, p 185、刘 1983, p 469 など。
- 24) 例 (29) は西安出身の作家贾平凹の長編小説《废都》に見られたものである。老舎をはじめとする北方の作家の作品にはこのような例が見あたらなかったことを考えると、方言との関連も考慮に入れなければならない、ここで例文として挙げるのは適切でないかもしれない。

＜例文引用作品＞

- 《二》老舍《二马》 人民文学出版社
 《茶》老舍《茶馆》 人民文学出版社
 《雷》曹禺《雷雨》 人民文学出版社
 《许》王朔《许爷》 王朔文集2 挚情卷 华艺出版社
 《橡》王朔《橡皮人》 王朔文集2 挚情卷 华艺出版社
 《你》王朔《你不是一个俗人》 王朔文集4 诙谐卷 华艺出版社
 《我》王朔《我是你爸爸》 王朔文集3 矫情卷 华艺出版社
 《围》钱鍾书《围城》 人民出版社

＜主要参考文献＞

- 相原 茂 1985. <“亲嘴”の“嘴”は誰のもの?>, 明治大学教養論集 176。
 陈建民 1986. 《现代汉语句型论》。语文出版社。
 龚千炎 1983. <由“V给”引起的兼语句及其变化>, 《中国语文》第4期。
 李临定 1986. 『现代汉语句型』。商务印书馆。
 刘月华 1983. 『实用现代汉语语法』。外语教学与研究出版社。
 卢 涛 2000. 『中国語における「空間動詞」の文法化研究—日本語と中国語との
 関連で一』。白帝社。
 吕叔湘 1999. 《现代汉语八百词》。增订本, 商务印书馆。
 中川正之 1973. <二重目的語文の直接目的語における数量限定語について>
 『中国語学』218号。
 関 光世 2001. <“V给”構文について—構文文法の視点から—>大阪外国語大
 学提出修士論文。
 施关淦 1981. <“给”的词性及与此相关的某些语法现象>, 《语文研究》第2辑。
 沈家煊 1999. <“在”字句和“给”字句>, 《中国语文》第2期。
 杉村博文 2000. <“给”の意味と用法>, 『中国語』, 02号。
 张伯江 1999. <现代汉语的双及物结构式>, 《中国语文》第3期。
 朱德熙 1979. <与动词“给”相关的句法问题>, 《方言》第2期。
 朱德熙 1998. 《语法讲义》。商务印书馆。
 Langacker, R.W. 1990. 『Concept, Image, and Symbol The Cognitive Basis of Grammar』
 Mouton de Gruyter Berlin·New York.

＜付記＞

本稿は、日本中国語学会第50回大会（2000/10/29：名古屋大学）における口頭発表と、2001年1月に大阪外国語大学大学院に提出修士論文の一部を修正、加筆したものである。